

Q21 係活動に関して

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

自分から進んで生き物の世話をする係になったA君。毎日欠かさず餌をあげていますが、友達と一緒に
行う水槽洗いなどの仕事は協力しないため、他の子どもから苦情が出てきてしまいます。

自閉症の子どもは、他の人と一緒に一つのことをやり遂げようとするのが苦手なため、積極的に人と
協力して仕事をする様子はあまり見られません。また、自分の言動が人に与える影響を予測することも苦
手なため、悪気はなくても相手の人に不快な印象を与えてしまうこともあります。係活動のように決まっ
た行動や、特に興味のある活動に対しては自主的に取り組むことができますが、臨機応変な行動を求めら
れる活動は、結果的に取り組めないこともあります。

〈このような場合の支援 1〉

小学校2年生の知的障害を伴う自閉症の男児。帰りの会で各係活動の反省をし、活動したらシールを貼ると
いう約束になっています。ある時、本児が仕事をしていないのにシールを貼ろうとしたことで、周囲の子ども
とケンカになってしまいました。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 自分の所にシールを貼るという行為のみにとらわれている可能性がある。そこで、仕事をしたらシールを
貼るというルールを再度確認する。
- ② シールを貼れるような係活動に位置付けて、仕事の内容を明確にする。
- ③ 本児の仕事の内容は、柔軟な対応が必要なことでなく、分かりやすく、始めと終わりがはっきりしていて、
手早く解決ができ、毎回決まった内容のものがよい。
- ④ 係活動としては、本児が得意な領域や興味を持てる仕事がよい。
- ⑤ 仕事が定着するまで、活動の順番を記した手順表などを本児の目に付くところに置いておく。
- ⑥ 仕事を行ったことを確認してからシールを手渡すようにする（本児だけでなく周りの子どもも同様にする
方がよい）。

〈このような場合の支援 2〉

小学校4年生の高機能自閉症の男児。黒板を拭く係として、毎回しっかりと活動していたのですが、この日
は周りの友だちとけんかになってしまいました。それは、まだ黒板の字を写している子がいたのに、本児が消
してしまい口論になったようです。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ⑦ の仕事として、授業終了後黒板をきれいに拭いたことを認め、まずは誉めて共感する。
- ⑧ 係の仕事をきちんと行ったにも関わらず、トラブルになったわけを本人に考えさせる。原因を理解できな
い場合は、教師がその理由を教えることが重要。
- ⑨ 同じようなトラブルにならない方法を考える。本児にとってわかりやすい方法を話し合う（例：授業が終
わる→「消してもいいですか？」ときく→「いいです」とクラスの人が言う→消す）。
- ⑩ 新しい方法が記された手順表を用意し、確認しながら行うように支援する。
- ⑪ 本児だけの問題としないで、クラス全体の事としても考え協力し合う。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子